

総合職試験等からの新規採用職員に対するアンケート
調査結果の概要

調査対象者 令和2年度初任行政研修を受講した職員 650人
 有効回答数 634人 (回収率97.5%)

※ 以下の各問の欄の「N」は、それぞれの問に対する有効回答数

「法文系の職員」及び「理工・農学系等の職員」の試験区分は以下のとおり (不明2人)

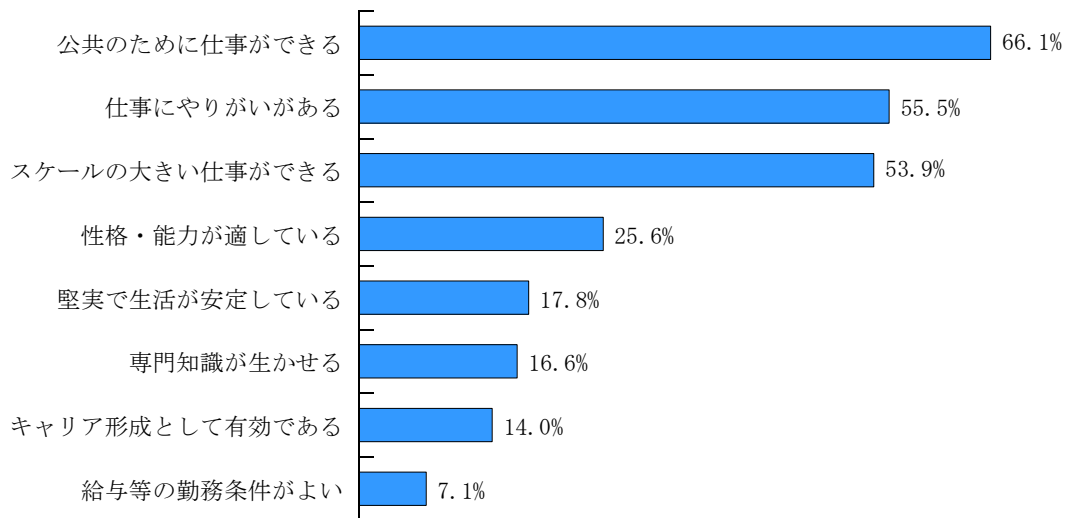
「法文系の職員」 (回答数359人)

- ・総合職試験：「行政」「政治・国際」「法律」「経済」「人間科学」「教養」「法務」
- ・総合職試験以外の試験：「事務系」(選考採用)

「理工・農学系等の職員」 (回答数273人)

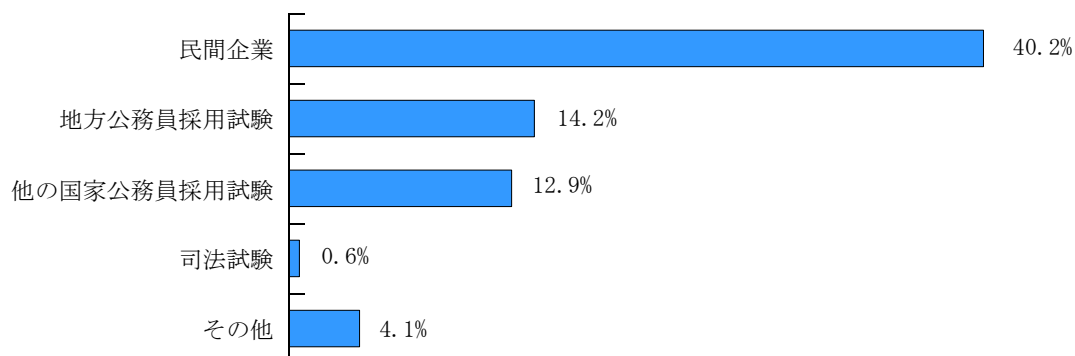
- ・総合職試験：「工学」「数理学・物理・地球科学」「化学・生物・薬学」「農業科学・水産」「農業農村工学」「森林・自然環境」
- ・総合職試験以外の試験：「技術系」(選考採用)等

問1 国家公務員になろうとした主な理由は何ですか。(三つ選択) (N=634)



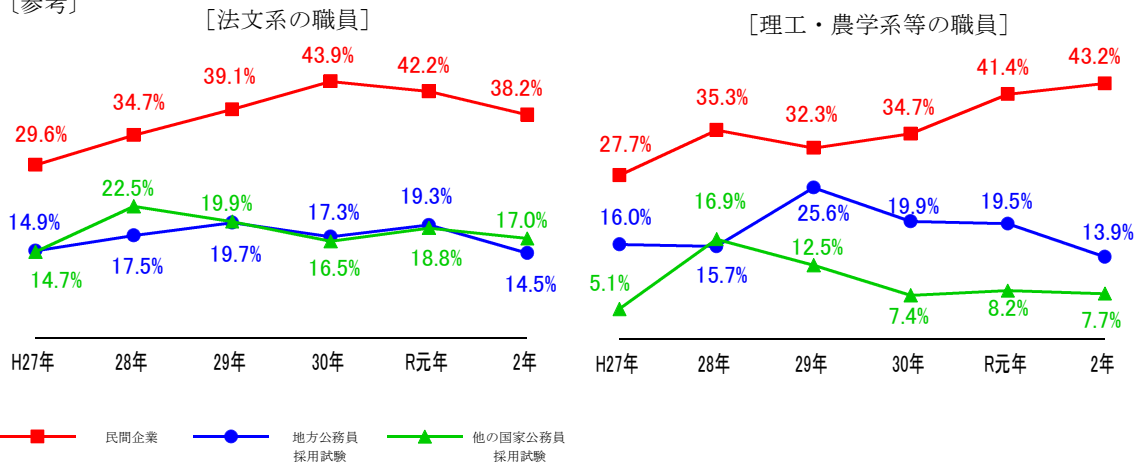
「公共のために仕事ができる」「仕事にやりがいがある」「スケールの大きい仕事ができる」と回答した者が上位3つを占めています。特に「公共のために仕事ができる」「仕事にやりがいがある」は、例年5割以上の者が選択しています。

問2 採用された試験以外で、合格又は内定したものはありますか。(複数回答) (N=634)



全体では、「民間企業」が40.2%、「地方公務員採用試験」が14.2%、「他の国家公務員採用試験」が12.9%となっています。「民間企業」が5年前に比べて、法文系の職員は8.6ポイント増加、理工・農学系等の職員は15.5ポイント増加しています。

[参考]

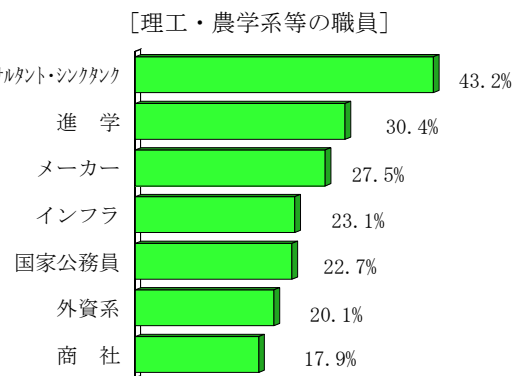
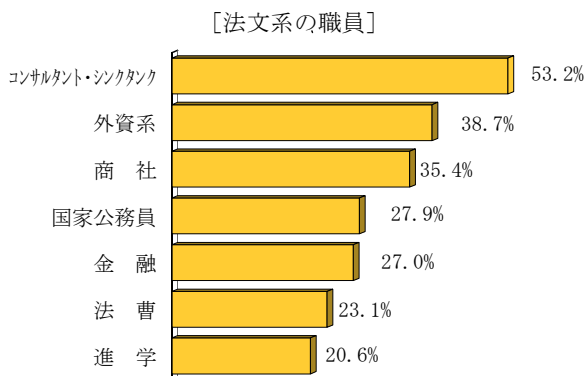


問3 自分の周りの優秀な学生はどのようなところに就職しましたか。(三つ選択)

<就職先の上位>

(N=359)

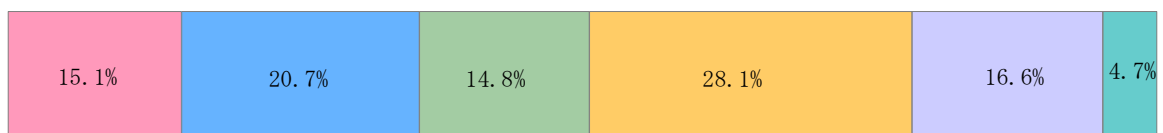
(N=273)



法文系の職員では「コンサルタント・シンクタンク」「外資系」「商社」、理工・農学系等の職員では「コンサルタント・シンクタンク」「進学」「メーカー」が上位となっています。

問4 将来どこまで昇進したいと思いますか。(一つ選択)

(N=634)

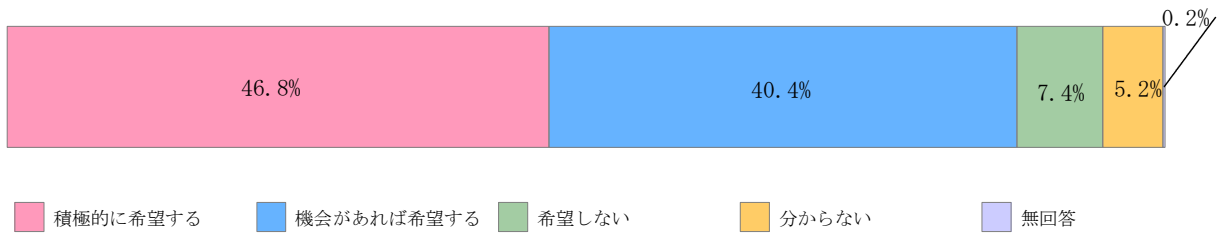


事務次官級 局長級 局次長・審議官級 課長級 課長補佐級
無回答

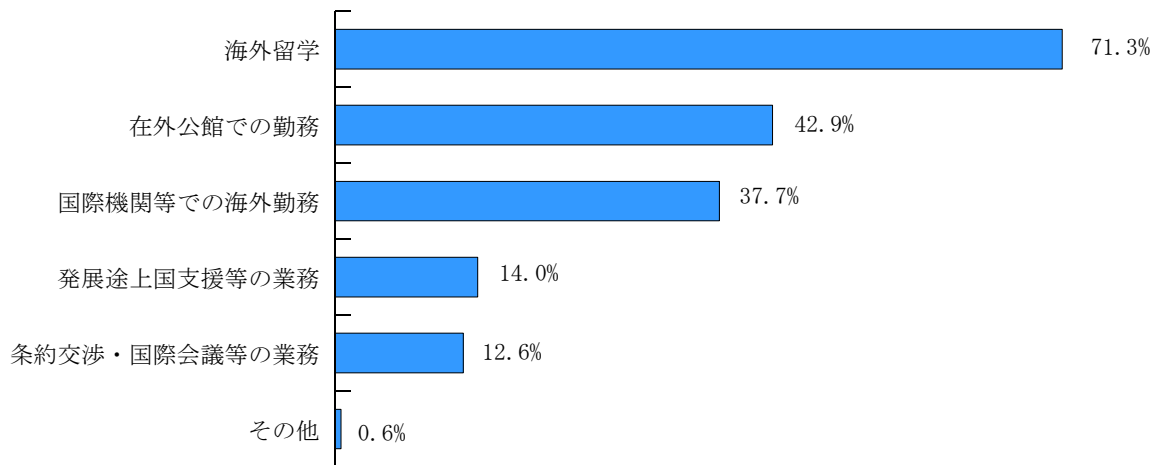
(回答は本府省の各役職を示している)

「事務次官級」が15.1%、「本府省の局長級」が20.7%、「本府省の課長級」が28.1%となっており、本府省の局次長・審議官級以上に昇進したい者が50.6%となっています。

問5 国際的な経験（留学・海外勤務など）について、どのように考えていますか (1つ選択)
(N=634)

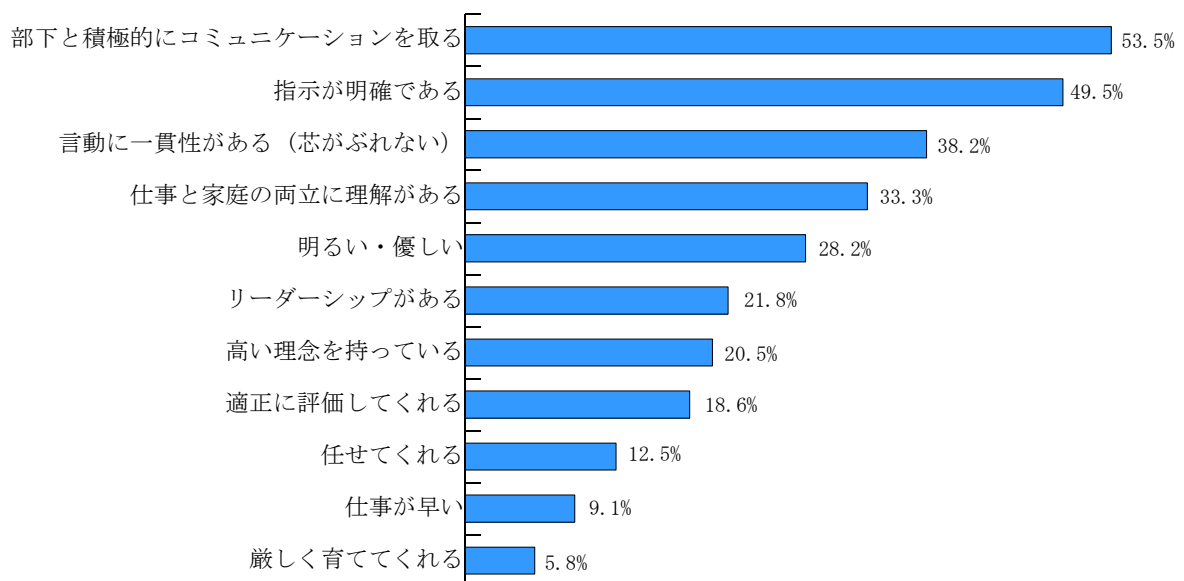


問5において「積極的に希望する」又は「機会があれば希望する」を選択した者の回答（複数回答）



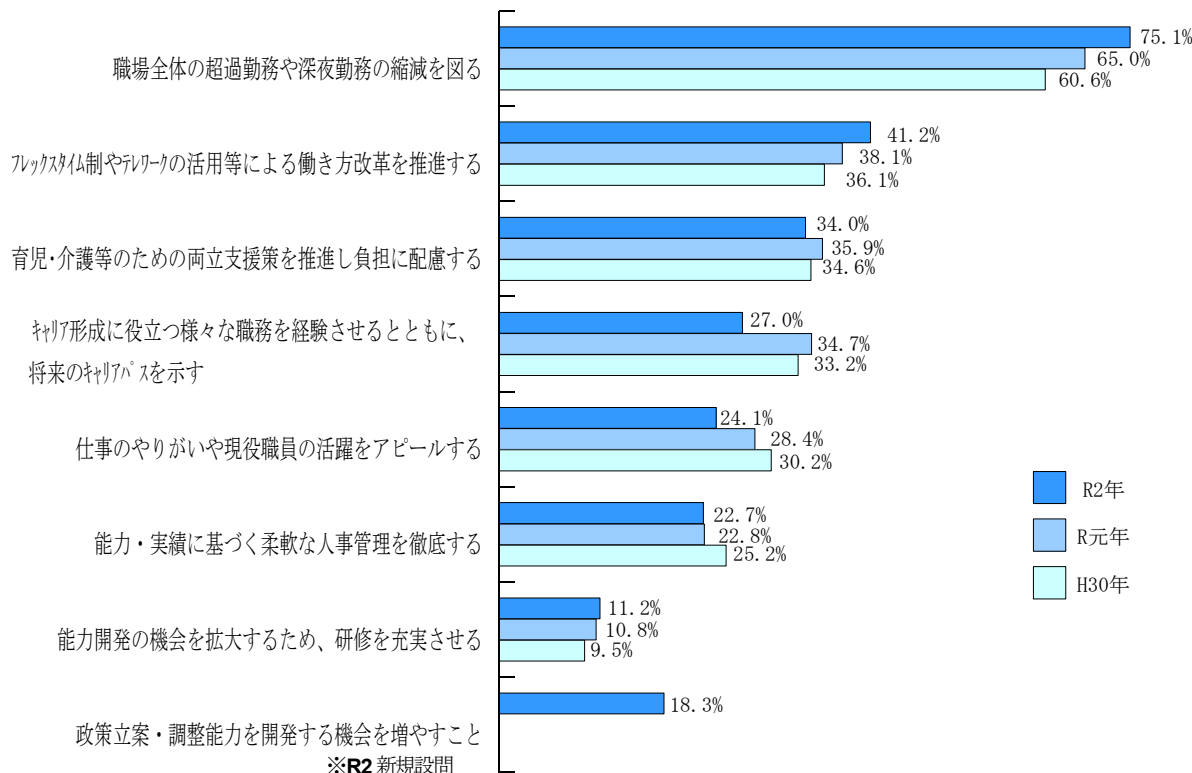
国際的な経験（留学・海外勤務など）について、「積極的に希望する」が46.8%、「機会があれば希望する」が40.4%となっており、8割以上の者が留学・海外勤務などを希望しています。また、問5において「積極的に希望する」又は「機会があれば希望する」を選択した者のうち、約7割の者が「海外留学」を選択しています。

問6 どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいですか。 (三つ選択) (N=634)



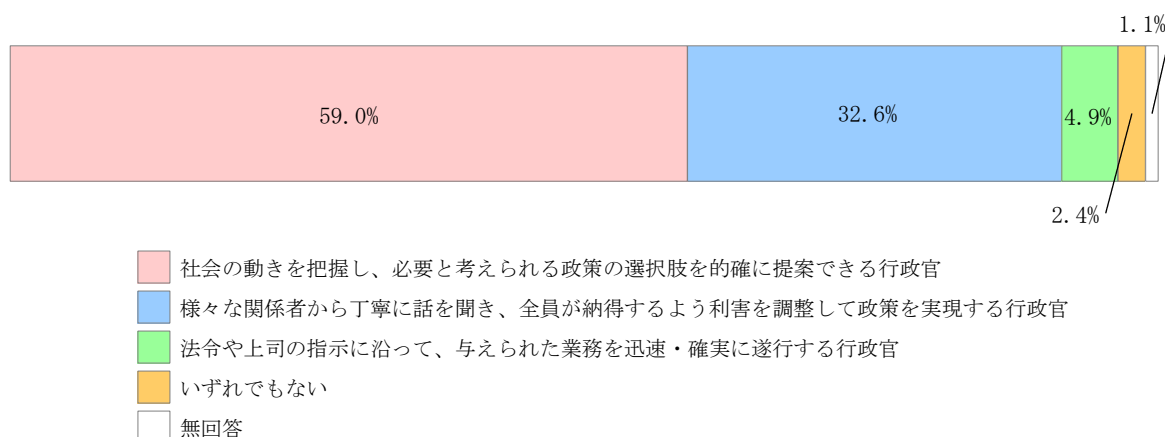
「部下と積極的にコミュニケーションを取る」タイプの上司が53.5%と高く、「指示が明確である」についても、約5割の者が選択しています。一方、「厳しく育ててくれる」は5.8%と低くなっています。

問7 どのような取組をより進めると、公務の魅力が向上し、優秀な人材の獲得につながるとお考えですか。（複数回答） (N=634)



「職場全体の超過勤務や深夜勤務の縮減を図る」が75.1%と最も高くなっており、次いで「フレックスタイム制やテレワークの活用等による働き方改革を推進する」が41.2%となっています。また、「政策立案・調整能力を開発する機会を増やすこと」（R2新規設問）は約2割の者が選択しています。

問8 あなたがなりたい行政官のイメージは、何ですか。（一つ選択） (N=634)



「社会の動きを把握し、必要と考えられる政策の選択肢を的確に提案できる行政官」が59.0%と最も高く、次いで「様々な関係者から丁寧に話を聞き、全員が納得するよう利害を調整して政策を実現する行政官」が32.6%となっています。